緑に囲まれた初夏の湖畔を駆け抜ける

第38回中国山地日野鵜の池マラソン大会

▲笑顔で一斉にスタートを切る参加者

標高400㍍の豊かな緑と水に抱かれた湖畔を走る、第38回中国山地日野鵜の池マラソン大会(同実行委員会主催)が、6月14日、鵜の池湖畔で開かれました。当日は、さわやかな青空が広がる絶好のマラソン日和の中、県内外から400人を超える選手が参加しました。

スタート前には、景山享弘大会長が「緑に囲まれた鵜の池を走り、自然を感じてもらいたい。皆さんの思い出の1ページに残ることを祈っています」と参加者を激励しました。

コースは、鵜の池湖畔を周回する2・3㌔、4・6㌔、6・9㌔で、年齢別に分かれたクラスを、家族やほかの参加者らの応援を受けながら駆け抜けていきました。

本大会には、米子西高校陸上部や米子松蔭高校陸上競技部の生徒らも参加し、県内トップレベルの走りをみせたほか、宇田春男さん(黒坂)が昨年に続き最高齢で参加され元気な姿を披露しました。

また、会場では日野病院医師の朴(パク)大昊(テホ)さんによる「よろず相談」が行われ、参加者らが健康相談などに訪れていました。そのほか、恒例となった地元の団体による野菜たっぷりのみそ汁サービスや、焼きそば、手芸品・木工品などのバザーが設けられ、選手やその家族らでにぎわいました。

各クラス終了後には、奥日野源流太鼓(日南町)の皆さんが勇壮な太鼓を披露。会場からは大きな拍手が送られていました。

◀今年も元気な姿を見せる宇田さん

▼選手へ大きな声援が飛ぶ

▲ゴールまであと少し！

▲選手宣誓は伊田忠人さん(下黒坂)家族

▲米子松蔭高校の生徒も力走

◀最後の力を振り絞る

▲見事なバチさばきで会場を魅了

▲バザーも大忙し！

▼抽選で日野町産米が当たりました！

例年を上回る400人が力走

バザーやアトラクション、抽選会も大いににぎわう

▲次々に笑顔でゴールテープを切る

▼風でなびく湖面を背に自然を感じながらゴールを目指す

▼無事に完走。達成感があふれ出る

▲気軽に健康相談などに応じる朴医師

▼仲間たちと一緒に「楽しんでます！」